

研究構想シート	学校名	奥出雲町立馬木小学校
	氏名	古澤 文子
A 研究主題 造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の考えや思いを進んで表現できる子どもの育成		
B 研究の目的 造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の考えや思いを進んで表現する子どもを育てるには、どのような手立てをとれば有効なのかを、図画工作科の実践を通して明らかにする。		
C 子どもの実態 <ul style="list-style-type: none"> <li>・素直でまじめ</li> <li>・協調性がある</li> <li>・良いところを見付けるのが上手</li>   <li>・主体性に欠ける</li> <li>・自分で考えを生み出す経験の不足</li> <li>・言葉で伝えることが苦手</li> </ul>	E 手立て・内容（研究仮説） ○研究仮説 つけたい力を明確にし、児童が見通しを持って造形的な見方・考え方を働かせる授業展開を工夫すれば、互いの思いやイメージを言葉にしなが、様々な相互鑑賞を通して自分の造形的な見方・考え方を深め、自分の考えや思いを進んで表現する子どもが育つであろう。 ○具体仮説 ①見通しをもたせる工夫 材料や道具、技法との出会いを工夫し、児童が制作活動に造形的な見方・考え方の見通しをもつことができれば、自分の思いやイメージを試行錯誤しながら、進んで表現するであろう。 ②言葉に表す活動の工夫 言葉に表す活動場面を工夫すれば、自分の思いやイメージを整理したり、互いの思いやイメージを大切に、友だちと交流しながら楽しくつくったり、イメージをさらに深めたりできるであろう。	D めざす子どもの姿 ○出会いと経験から、見通しをもって活動する子  ○互いの思いやイメージを大切に、楽しくつくったり、交流したりする子
	F 検証方法 ○授業中の発言やつぶやき、児童の作品から、児童の思いやイメージを見取る。 ○ワークシートや鑑賞カードなどの記述を基に、児童の変容を見取る。	
	G 研究計画 ○児童の実態、めざす子どもの姿、手立てを職員みんなで共有する。 ○研究職員会議の中にミニ演習を設け、職員自身が「造形的な見方・考え方」を働かせながら、授業での見通しのもたせ方について共有する。 ○1学期授業研究 夏季休業中 授業構想・指導案作成 ○2学期授業研究 ○授業研究の振り返り	